

専修大学教育振興協力資金寄付者芳名

(平成16年7月1日～12月31日)

専修大学は、来る2009年(平成21)に創立130年を迎えます。

専修大学、石巻専修大学、専修大学北海道短期大学の更なる発展・充実を図るため、平成17年4月より「創立130年記念事業資金」の募金を計画しております。寄付金のお申し込み、お問い合わせは「専修大学募金局」【電話03(3265)3157】へお願いいたします。

法人・団体

(財)石巻地域高等教育事業団殿
(株)さわやか殿
石巻信用金庫殿
日本商品先物振興協会殿
(株)富士ベーカリー殿
(株)専大センチュリー殿
森永フードサービス(株)殿
東京ケータリング(株)殿
邦光堂殿
(財)旭硝子財団殿
(財)糧食研究会殿
特定非営利活動法人 環境保全米ネットワーク殿
富士通メディアデバイス(株)殿
(株)サンコール殿

個人

校友・教職員ほか

高橋 正一殿	志村 裕道殿	臼庭 昌治殿
坂井 寿憲殿	安西 範真殿	小林 直樹殿
武田 安正殿	中田 保殿	宮岡 孝之殿
桃野 直樹殿		

在学生父母

専修大学

経済学部経済学科

平林 要蔵殿	三村 敏之殿	穂積 嘉子殿
信時 和典殿	奥村 靖殿	真仁田 裕殿
猪狩 信男殿	鈴木 隆博殿	嶋田とし江殿
有木 真一殿	石津 健光殿	桐谷 公司殿
森 倫子殿	一 鎌田耕寿殿	

経済学部国際経済学科

小林 晶殿	中嶋 正美殿	
-------	--------	--

法学部法律学科

桜井 道夫殿	猪上 美幸殿	河野 道生殿
清水 光明殿	堀井 重夫殿	

経営学部経営学科

中村 明殿	兼次 民喜殿	高橋 勝文殿
北島 和己殿	モジタバブル・マムド殿	加藤 誠一殿
森下健七郎殿	土屋 芳久殿	小林 勉殿
高橋 和枝殿	山下 義範殿	間地 正躬殿
小倉 良昭殿		

商学部商業学科

河又 博史殿	神中 豊明殿	湯場崎克彦殿
平塚 一好殿	中越 泰介殿	長山心穂子殿
小北 隆一殿		

商学部会計学科

初山 英俊殿	柴田 勝美殿	
--------	--------	--

文学部日本語日本文学科

小西 將博殿	順吉市太郎殿	井田 良伸殿
摩庭 正殿	高尾 重忠殿	

文学部人文学科

伊藤 武彦殿	宮澤 進殿	高橋 新士殿
--------	-------	--------

文学部心理学科

相澤 稔明殿		
--------	--	--

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科

穴戸 洋殿	崩出 忠廣殿	
-------	--------	--

二部経済学部

益子 弘殿	小川 博司殿	林 民男殿
鷺谷 弘殿	米島 邁殿	小松 真吾殿
寺島 寿一殿	三上 義邦殿	中村 國彦殿

二部法学部

広瀬 宏一殿	菊池 明男殿	森 敏子殿
武田 芳彦殿	山内 正一殿	飯島 安二殿

二部商学部

山田 雅範殿	福島 講次殿	早川 幸宏殿
--------	--------	--------

専門職大学院

望月 正武殿		
--------	--	--

石巻専修大学

菊地 靖殿	菅原 実殿	菊池 利明殿
沼田 敏雄殿	犬飼 則雄殿	鈴木 隆殿
高松 三郎殿	折田美枝子殿	中村 敬二殿
阿部 道義殿	阿部 正殿	下村 秋雄殿
糟谷 俊幸殿	赤坂 俊悦殿	千葉 義一殿
河野 賢司殿	佐藤 敬二殿	千葉 善樹殿
小松 栄男殿	尾形 誠一殿	赤坂 栄紀殿
千代川 正殿	風穴 弘殿	三浦 宏殿
川井 修一殿	佐藤 孝殿	本間 良男殿
森 達郎殿	佐藤 文昭殿	高橋 清殿
加賀美冬史殿	吉田 哲弥殿	白鳥 由美殿
小澤 孝義殿	阿部 精二殿	菱沼 正彦殿
佐々木治郎殿		

北海道短期大学

神代 登殿	梅田 誠喜殿	濤岡 徳好殿
-------	--------	--------

穴山 勇孝殿	藤原 善生殿	矢嶋 久徳殿
角 伸樹殿	中川 茂殿	加藤 幸二殿
木山 和保殿	鈴木 篤殿	小暮 豊治殿
宮田 晃殿	村山 幹雄殿	澤邊 正一殿
奥村 充殿	丹治 正勝殿	小林 守殿
酒井 和広殿	福田 太志殿	中村 好英殿
尾高 龍一殿	小川 一男殿	原 継雄殿
鴻巣喜久雄殿	東尾 喜昭殿	福井 輝司殿
小野寺秀喜殿	忠 勝好殿	村山 利満殿
大井 信弘殿	工藤 英雄殿	佐藤千恵子殿
若園 英隆殿	山本 貞夫殿	和泉 仁作殿
森 正直殿	山口 規夫殿	市川 昌廣殿
岡元 英夫殿	渡邊 廉博殿	鶴岡 保一殿
市田 義一殿	葛西 真人殿	市村 正義殿
和智 康昭殿	山内 達殿	須藤 克己殿
鈴木 妙子殿		

校友会顧問・相談役・参与懇談会

校友会の顧問・相談役・参与懇談会が1月22日、神田校舎で開催された。会に先立ち、千葉博、林一夫元会長はじめ、この1年で物故された役員10人に黙祷をささげた。会は河本雄三校友会総務部長が進行。小林清校友会会長、出牛正芳理事長、日高義博学長らがあいさつ。大瀬利行育友会会長の音頭で乾杯、懇談に入った。遠来者のあいさつでは伊万里市から出席の山下徳夫前理事長が元気なところを見せ、駅伝復活に期待すると述べ山形市から出席の布見政助相談役は郷土言葉で戦中派の元気なところをアピール。下呂市から出席の住正文参与が地元の町村合併の状況を話した。

今年も各地から100人余りが出席し、野球、駅伝の話題などを交え、旧交を温めた。新学長を励ます光景も見られ、和やかな一時を過ごした。

卒業おめでとう！！

校友会主催 新校友歓迎祝賀会のご案内

日時 3月22日(火) 午後1時から(予定)

場所 神田キャンパス1回広場(雨天=B1学生ホール)

樽酒や屋台などを用意いたします。応援団やチアリーダーも会を盛り上げま

す。詳細及び昨年の様子は【[校友会ホームページ\(こちら\)](#)】で

校友会支部だより

<流通研究OB会総会>

10月8日、神田校舎で。来賓8人、会員64人が出席。

石川昇氏(昭46商)が司会。坂上和也会長(昭45経済)、坂本伴治校友会副会長があいさつ。議事に移り、会務を承認した。引き続き、(株)グリーンファクトリー東京・代表取締役の田村弘一氏による「三流スーパーから顧客満足度ナンバーワンスーパーへ」と題した講演を聴講した。

<学内支部総会>

10月22日、神田校舎で。本部2人、来賓2人、会員77人が出席。

佐々木恭子さん(平4法)、吉田理奈さん(平6文)が司会。出牛理事長、日高学長、小林校友会長が祝辞を述べ、木幡文徳支部長(昭50法博)があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

<広島支部総会>

10月22日、広島市の「広島全日空ホテル」で。本部2人、会員38人が出席。河野駿氏(昭44法)が司会。河辺捷義支部長(昭41経済)、吉江正春校友会副会長があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

<網走支部総会>

10月23日、常呂郡佐呂間町の「サロマ湖温泉ホテル緑館」で。来賓2人、会員22人が出席。佐藤周一氏(昭45商)が司会。沢崎孝寿支部長(昭43法)、北海道連合校友会の大坪敬幸氏(昭37法)があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

<山形支部総会>

10月23日、山形市の「ホテルキャッスル」で。本部1人、大学1人、来賓7人、会員26人が出席。鈴木恵厚氏(昭53文)が司会。会に先立ち、福田俊雄校友会副会長が「専修大学の現況報告」をテーマに講演。海谷喜久雄支部長(昭33商経)のあいさつの後、議事に移り、会務を承認した。

<熊本支部交流会>

10月23日、水俣市の「福田農場ワイナリー」で。本部1人、会員24人が出席。支部活動の参加者増加を目的に、城南地区の会員を対象とした交流会を開いた。財部憲男氏(昭45経営)が司会。淵上宣生支部長(昭36商経)があいさつ。

<白井支部総会>

10月30日、千葉県白井市の「ドライブインなかむら」で。本部2人、来賓7人、会員ら17人が出席。鈴木源太郎氏(昭51経済)が司会。山本達雄支部長(昭28商経)のあいさつに続き、来賓の中村教彰白井市長が祝辞を述べた。議事に移り、会務を承認。新潟県災害対策本部へ中越地震の義援金を送ることを決め、後日寄付した。

<予科19会旅行会>

11月9日、栃木県の川治温泉「宿屋伝七」で。会員13人が出席。懇親会は島田源造会長があいさつ。長年の支部活動に対し、校友会から感謝状が贈られたことが伝えられた。石垣安造氏の音頭で乾杯。馬淵和喜氏のリードで校歌を斉唱し、再会を誓った。

<東日本銀行支部総会>

11月13日、台東区の「割烹まつもと」で。本部1人、来賓5人、会員16人が出席。名取孝幸氏(平3商)が司会。議事に移り、会務を承認。役員改選が行われ、新支部長に大原光雄氏(昭49法)を選任した。

校友の本

金融マン・中小企業経営者のための経営再建ハンドブック

木村 政貴(昭55商)著

サッポロビール(株)マーケティング本部営業部経営指導グループ担当部長を務め、長年にわたり特約店に対する経営診断・指導を担当してきた著者が、勤務先の顧問弁護士に「これまでの経験をまとめてみては」と薦められ、公認会計士の長井和男氏と共著で出版した。

経営再建の具体策と重要項目について、経営・法務・税務の専門的視点から経営再建の基本を解説している。

「経営再建に精通した実務者が不足しており、その養成のため、事例研究、書式例を通じた実務例の解説と、関連用語の解説を加えました。再生支援の指導者から経験の浅い金融マン・実務者の方まで幅広く活用していただけたと思います」と木村さんは話

している。(金融ブックス・本体2100円＋税)

知って得する年金・税金・雇用・健康・保険の基礎知識

榎本 恵一(昭61商)著

税理士、ファイナンシャルプランナーとして活躍し、多くの企業で財務・経営コンサル、人事コンサルを行う著者が、それぞれの分野の専門家と共に、知っていれば得をする年金、健康保険や税金、雇用制度の代表的なものを分かりやすく解説している。学校を卒業して社会人になるところから始まり、結婚、出産、中高年、引退へと人生を進み、最後は他界するまでの流れに沿って書かれており、必要な部分を読むだけでも十分理解出来る。「制度を使って得をするのも損をするのもその人次第。この本をきっかけに『得する生活』をスタートさせていただければと思います。『自分の人生は自分で決める』という心構えを忘れずに」と呼びかけている。(三和書籍・本体2000円＋税)

【ニュース専修2005年2月号4面】